

伊豆の私の家に、身の丈六十センチ程の大和人形がおります。おかつば頭に、大きな瞳と小さく結ばれた口元を持つ、振袖姿の彼女を、母は、いつの頃からか「さくらちゃん」と呼んでいます。

「さくらちゃん」は、昭和二年、母の誕生を祝って、当時、母の実家に出入りしていた職人達が、贈ってくれたものです。昭和初期の大和人形というと、アメリカとの人形使節として、はるばる海を渡った大和人形と時期を同じくしており、たぶん母の人形も、その仲間の一体ではないかと思われます。「さくらちゃん」は、他の人形が太平洋を越えたのは運命を異にし、三島の母の元へと贈られました。そして、三十年間、三島をその住まいとしました。

結婚して長い間、子供に恵れなかった母は、「さくらちゃん」を伊豆の婚家に連れてくることを思い立ち、さらしと風呂敷に彼女を包み、抱きかかえながら、バスにゆられ、天城峠を越え伊豆の家に

運びました。その翌年、私は、生まれました。その後、家族一同、私の成長にかけ「さくらちゃん」の存在は、薄いものとなり、いつしか部屋の隅で、他の荷物にまぎれるように、三十年の歳月を過ごすことになりました。

母と共に六十年の年月をすごした「さくらちゃん」にも、やはり老いは訪れるのでしょうか。外から見ても、いたみがわかる程になり、私と母は、彼女の修理を決めました。秋も終わる頃、私は、母が三十年前したのと同様に、彼女を抱きかかえ、新幹線で東京へと運びました。

今、彼女は、吉徳に入院しています。彼女が、再び、私と母の前に姿を見せる頃、私は、三十回目の誕生日を迎えています。三十年毎に動く「さくらちゃん」。二月に彼女も母と同様六十回目の誕生日を祝うことになりそうです。

(嘗)

幼児の教育 第八十六巻 第二号

二月号 〇

定価 四〇〇円

昭和六十二年一月二十五日 印刷

昭和六十二年二月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いします

※万一製造不良の点がございましたら、おとりかえいたします。